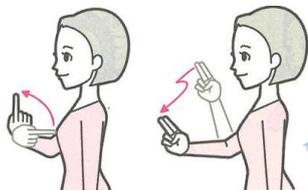


自分らしく

手と心でつながる わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～



前に伸ばした右手2指で「！」の印を描くように下ろす

かきばらの風

第46号 令和3年4月29日

松江ろう学校 校長だより 福島朗博

今年度の本校の教育目標と各部の重点目標について

～「笑顔あふれる松ろう」の魅力化と発信力の向上をめざします～

本日は授業参観や学部懇談会、PTA総会にご参加いただき、ありがとうございました。本校では子どもに合わせた内容と「わかる授業」、すなわち子どものやる気を引き出し、気づきや考えることを促す授業を心がけています。保護者の皆様には、本校の教育についてご理解を深めていただきながら、お子さまの成長をともに見守っていきたくと思っています。またPTA活動につきましても、新会長と役員の方々をはじめ、皆様と力を合わせて子どものために取り組んでいきたくと思います。ぜひとも積極的なご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■本校の今年度の教育目標 ～家庭・地域と協働して自分らしく主体的に生きる力が育つ～

鳥根県教育委員会で昨年度より「しまね教育魅力化ビジョン」が5年間の計画で策定されました。「ふるさと島根を学びの原点に 未来にはばたく 心豊かな人づくり」を基本理念にして、「学力」「社会力」「人間力」を育成していくものです。続けて今年度から「しまね特別支援教育魅力化ビジョン」（12年度までの10年間）が策定されました。ここでうたわれる魅力化については「地域の中で障がいのある子どもが持てる力を十分に発揮し、力強く、自分らしく生きる」と記されているように、家庭・地域と連携・協働した特別支援教育の展開が大きく示されています。これらのことを受けて、本校の今年度の教育目標を次のように立てました。

本年度の教育目標

これからの変化の激しい社会をたくましく生き抜く力

自分にとって有益な情報を収集し、自己有用感と自己肯定感をもって

社会の中で自分らしく主体的に、様々な他者と協働しながら、目標や課題に向かっていく力を育みます

卒業後に、ある会社に就職できたとしても、10年後にはその会社やその種の仕事自体がなくなっても不思議ではないくらい、変化の激しい社会になりました。もしそのような事態に陥ったときに、過去のことにとこだわらず、自分で有益な情報等を集めながら生き方や働き方を見直して再構築を図ろうとするたくましさや能力が求められると思います。本校で現在取り組んでいる課題解決学習などは、そのような生きる力の基となるものです。ただし、下図に示した「きこえない子どもの課題」でもある「確かな日本語力」や「自己有用感・自己肯定感」、「折り合いのために必要な他者理解」、「人としてのふるまい・マナー」などは学校だけでは完結できません。幼児期からの家庭との協働は小中高においても重要で、また地域の方々との協働による教育活動の高まりを通して、豊かなコミュニケーション力や表現力、地域貢献を目指す社会力・人間力を育成していきたいと思っています。

この教育目標に基づいて、今年度も学部・寄宿舎、分掌でそれぞれ重点目標を立てました。その図を裏面下に示しましたのでご覧ください。「松ろうの魅力化・発信力向上」として聴覚障がい教育の専門性の向上と授業力の向上に取り組んでいますが、今年度は全日本聾教育研究大会鳥根大会の開催にあたり、3年間かけて行ってきた実践研究

手話イラストは「わたしたちの手話学習辞典」

(全日本ろうあ連盟出版局) より引用

しまね教育魅力化ビジョン【学力・社会力・人間力】+ 本校の子に必要な力

【学力を育む】

- ①知識・技能を活かす力
- ②自分の考えや意見を構築し、伝える力
- ③夢や志を形成し、やり遂げる力

【確かな日本語力】
とセットで考える力

【社会力を育む】

- ①交流から自分を広げる力
- ②多様な人と合意形成を図り、物事を進めていく力
- ③相違や対立を乗り越え、新たな価値観を見いだす力

他者理解・他者形成
・「公」の視点・協働

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力・人間性等

【人間力を育む】

- ①多様な自然・文化を知る力
- ②見えにくいことにも気づき、考え行動する力
- ③人や地域に感謝し心地よい居場所を作ろうとする力

自己理解
・自己有用感
・地域貢献



の集大成となります。幼稚園・小学部・中学部・高等部・寄宿舎のそれぞれで取り組んでいる研究内容は右表のとおりです。大学等の助言講師の指導を仰ぎながら実践を積み重ねる中で「松ろうらしさ」が表れた内容になってきており、全国への発信を通して島根の聴覚障がい教育の継承に繋がっていきます。保護者と関係の皆様には研究大会のお知らせに合わせてご協力のほどよろしくお願いいたします。

授業づくりと専門性の向上
2021全日聾研島根大会(3年次)
実践研究「松ろうらしさ」の全国への発信から
島根の聴覚障がい教育の継承へ
幼: 幼児の思いの受け止め、発信に向けた様々なコミ手段への置き換え→**幼児同士が繋がる力の育成**
小: 日本語文法指導や思考ツールを活用した授業づくり→**多面的な物事の捉え方ができる力の育成**
中: 個の重点目標達成への授業の振り返りと次の授業への繋ぎ→**自他共に認め合える集団づくり**
高: 手立てや支援の検討重ねた次の授業への繋ぎ→**卒業後を見据えた課題解決能力の育成**
舎: エピソード記述による舎生の**内面の把握と支援共有**

最後に、今回の教育目標に加えた「自分らしく」「育つ」の言葉にかけた思いを伝えます。きこえない自分に対する「自己肯定感」は、発展途上にある子どもの頑張りやいいところを「**ほめる・励ます・認める**」ことで育ちますが、一方で周囲の「育てる」意識が過ぎると本当のものにはなりにくいと感じています。きこえの問題からことばやふるまいなど、教えられることに傾くと万事受け身で自分らしさは育ちません。子どもの気づきを大事にする大人の「**待つ**」姿勢と、「**信じて 任せる**」ことの見守りで、子どもは自ら「**育とう**」とし、「**信じてもらっている自分**」に**自信と誇り(自己肯定感)**をもち、「**任せられている**」ことに応えてくれることでしょう。

自分らしく主体的に生きる力が育つ

夢を描き、その実現に向かっていく教育の推進

【確かな日本語力・学力を育む】

- ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実
- ② **授業力の向上【全日聾研島根大会・ICT活用】**
- ③ 一貫した支援とキャリア教育の推進、学部間連携
 - ・子どもたちがわかる楽しさを感じ、進んで考えようとする授業づくり(小)
 - ・学級や教科をこえ、教師間で連携して言語力を育成する(中)
 - ・個々の学びを深め、主体的に考えることができる授業づくりの実践(高)
 - ・新学習指導要領に対応した教育課程の適切な運用の推進(教務)
 - ・授業力向上のための研究活動の推進(研究)
 - ・幼小中高の段階に応じた支援や情報提供の充実(進路)
 - ・キャリアパスポートの活用の充実(進路)

心身ともに調和のとれた心豊かな教育の推進

【社会力・人間力を育む】

- ① 自己理解・自己有用感の育成
- ② 社会性やコミュニケーション力の向上
- ③ 自他を尊重する心の育成
 - ・「みる力、きく力、考える力、表現する力」の育成(幼)
 - ・自分らしさ、友だちらしさ(よさや苦手さ)を知り、他者と協同していく力を育む(中)
 - ・多様な社会とつながるために、自分や相手の気持ちを理解しながらやりとりできる力を育む(高)
 - ・他者を思いやり、助け合いながら生活する舎生の育成(舎)
 - ・学校生活の充実と地域貢献を目指した生徒会活動の実践(生徒)

チーム松ろう協同

松ろう魅力化・発信力向上

子どもの学びを支える取組の推進と魅力化【つながる支援：学校・家庭・地域・関係機関との連携・協働】

- ① 望ましい生活習慣や健やかな体の育成
 - ・食育の推進(生徒)
- ② 教職員の資質向上を図る研修の充実・**専門性の向上【全日聾研島根大会】**
 - ・ICT機器の有効活用の推進とICT環境の整備(総務)
 - ・専門性の維持向上を図る学習会の充実(支援)
- ③ 地域との連携・協働と支援体制の充実・センター的機能の充実と**発信力の向上**
 - ・保護者との連携と子育て支援及び必要に応じた関係機関との連携(幼)
 - ・家庭や地域との連携の推進(小)
 - ・情報発信(HPとブログの更新)の充実(総務)
 - ・舎監、学部との連携(舎)
 - ・教育環境の維持向上と経費の節減(事務)

取組の推進を支える学校づくり・体制づくり

このおたより「かきばらの風」のバックナンバーは松江ろう学校ホームページでご覧になれます。